「行田のおいしいお米」や「観光地・行田」をPRすべく、2008年（平成20年）から始まった本市の田んぼアートは、昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止になり、今年で13回目。古代蓮の里東側の2・8ヘクタールの水田に色の異なる稲を植えて毎回違った絵を表現しています。

今年の図柄は「浮世絵」と「歌舞伎」

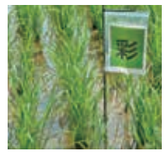
「田んぼに甦るジャポニスム～浮世絵と歌舞伎～」をテーマに描いたのは、葛飾北斎の浮世絵「富嶽三十六景神奈川沖浪裏」の押し寄せる波と富士山および歌舞伎「菅原伝授手習鏡」より人気の役柄・梅王丸。「富嶽三十六景神奈川沖浪裏」は、令和6年度（2024年度）に発行予定の新千円紙幣裏面に描かれます。

延べ539人が田植えに参加

毎回、多くの市民の皆さんの協力を得て制作される田んぼアート。今年は6月12日と13日の2日間で田植えが行われました。12日は377人のボランティアの皆さんが、13日は162人の田植え体験の皆さんが心を込めて丁寧に苗を植えました。

使用する稲は4品種

本市の今年の田んぼアートは、4品種の稲で描かれています。緑色は「彩のかがやき」、黒色は「ムラサキ905」、赤色は「べにあそび」、白色は「ゆきあそび」が使われています。品種によって、伸びる早さ、背丈、色が変わる時期、暑熱や病気への抵抗力はさまざま。7月中旬ごろに4品種の稲が鮮やかに色づき、それから秋にかけて日々表情を変えていきます。



真上から見ると歪んでいる？

デザインは、隣接する地上50メートルの高さの古代蓮会館展望室から見下ろしたときに、ちょうどよいバランスで見えるように遠近法処理が施されています。上空（真上）から撮影した写真を見ると、絵柄が歪んで見えます。

Edible Art（エディブル・アート＝食べられる芸術）プロジェクト

Edible Artプロジェクトでは、今般のコロナ禍によりもたらされた「米あまり」問題やインバウンドの縮小等による観光業への打撃などの課題解決に取り組みます。

なお、本事業は日本博イノベーション型プロジェクト（助成：文化庁／独立行政法人日本芸術文化振興会）採択事業です。

田んぼアートができるまで

県の種苗センターで種をまき、苗を育てます。

代掻き（田に水を入れて土を砕いてかきならす）をします。

測量機器を使って図形を形成するためのくいを打ちます（くいの総本数6,428本）。

くいとくいをひもで結び、絵の輪郭を縁取っていきます（ひもの総延長約8.9キロメートル）。

たくさんの方の協力により田植えを終えた直後の田んぼの様子です。

田植えから約2週間（6月下旬）。少しずつ図柄が見えてきました。

●プロジェクト1 田んぼアート「田んぼに甦るジャポニスム～浮世絵と歌舞伎～」の制作

ジャポニスムで絵画の巨匠たちに多大な影響を与えた「浮世絵」とユネスコ無形文化遺産にも登録された舞台芸術「歌舞伎」。これらを歴史文化を色濃く残す「行田の田んぼ」に描くことで、わが国の「田んぼ×文化芸術」という新しいジャポニスムを起こします。

なお、「ジャポニスム」とは、19世紀後半の日本の開国をきっかけに、日本の文化が西洋諸国の芸術分野に与えた影響のことです。

●プロジェクト2 ライスヌードルの製造

田んぼアートから収穫した埼玉県の米「彩のかがやき」を使用し、低アレルゲン、長期保存可能な「ライスヌードル」を製造します。ライスヌードルは田んぼアート田植えイベント参加者へ配布する他、非常時にも生かせる防災備蓄食として活用します。（令和4年2月ごろ完成予定）※非売品

●プロジェクト3 デジタルコンテンツの作成

①コロナ禍により田んぼアートを実際に鑑賞することが難しい方にも楽しんでいただけるよう、VRコンテンツを作成します。（9月ごろ市ホームページで公開予定）

②田んぼアートを契機として稲作文化の魅力を国内外に発信するべく、その制作過程（育苗から稲刈りまで）を収めた日英2言語映像を作成します。（令和4年2月ごろ市ホームページで公開予定）

日本博とは

日本博は、わが国の文化芸術の振興と日本の美の多様かつ普遍的な魅力を国内外への発信を図る事業です。

見頃は7月中旬～10月中旬

ぜひ、古代蓮会館展望室から移り変わりをお楽しみください。なお、田んぼの様子は、市ホームページでもご覧になれます。

▼問い合わせ　田んぼアート米づくり体験事業推進協議会事務局（農政課内・内線386）

田植え体験参加者へインタビュー

子供たちも楽しんで参加しています！

渡辺敏彦さん（棚田町）〈中央〉、翔大（しょうた）君（小4）〈右〉、悠斗（ゆうと）君（小1）〈左〉

田んぼアート田植え体験は3回目（悠斗君は2回目）の参加になります。お米作りを知る良い機会だと思い申し込みました。普段経験することができないので、子供たちもとても楽しんでいます。

自分たちが植えた稲が成長し、どのようなアートが浮かび上がるのか楽しみです。ぜひ、家族で見に行きたいと思います。秋に開催される稲刈りイベントにも、参加したいです。